

高垣忠一郎先生の定年退職にあたって

産業社会学部長 國廣 敏文

高垣忠一郎先生のご定年退職にあたり、学部を代表して、ご挨拶と先生の経歴紹介をさせていただきます。

学部・大学院教育を含む略歴紹介

高垣先生は、1944年3月のお生まれで、1968年に京都大学教育学部をご卒業、70年に京都大学大学院教育学研究科修士課程を修了、73年に同研究科博士課程を単位取得退学し、同年4月から京都大学教育学部助手を3年間勤められました。その後、76年4月からは大阪電気通信大学の専任教員となり、講師、助教授（79年4月～）、教授（85年4月～）と教歴をお積みになり、1995年4月に立命館大学産業社会学部教授として赴任、今日にいたるまで14年間教鞭をとられ、この3月にご定年をお迎えになることとなりました。また、2001年4月より現在までは、応用人間科学研究科配属の教授としても、大学院生の教育・指導に従事されてきました。

先生の研究テーマは、「心の発達と病理、および心理療法」ということで、産業社会学部でご担当の科目として「カウンセリング論」を中心に、「演習」、「卒業研究」等を、応用人間科学研究科では、実習・演習を含む臨床心理系科目を中心に院生指導を行うなど多くの学部学生・大学院生を育ててこられました。

先生の教育・研究は、ご自身が研究対象とされ、また実践もされてきた、学校教育現場や子どもの発達段階に関わって生ずる様々な問題（例えば、登校拒否・不登校、ひきこもり、子育て）を、社会の中で、社会との関わりにおいて考察するという点で一貫しており、こうした視点や豊富な臨床経験に裏打ちされた「カウンセリング論」の授業では、「わかりやすい」、「熱意が伝わってくる」など、受講生からも高い評価を得ていると聞いております。こうした点からみますと、高垣先生が本学部のみならず、立命館大学における臨床心理分野の教育・研究の発展に果たしてこられた役割は非常に大きく、大変感謝いたしております。

学内行政活動

他方で、学内の教学を支える点でも、1997年4月から2003年3月までの6年間、教職センター長、2003年4月から2007年3月までの4年間は応用人間科学研究科長などの職務を歴任なされ、大学教育・院生の指導・育成のために貢献されてきました。他方で、臨床心理士資格を有しておられます

ので、本学の「心理・教育相談センター」においてカウンセリングを行ってもこられました。

学会活動、社会活動・社会貢献

学外の活動についてご紹介させていただきますと、学会関連では、日本生活指導学会、日本心理学会、日本教育心理学会、日本臨床心理学会に所属されておられますが、日本生活指導学会では、2004年から3年間、理事を務めておられます。社会活動・社会貢献の面では、2007年8月より現在にいたるまで「登校拒否・不登校問題全国連絡会」世話人代表を務められ、社会的に教育・研究の成果を還元なさる活動を行ってご活躍をされております。

むすびにあたって

このように高垣先生は、大学や大学院での教育、そして社会活動それぞれの面で、大きな活躍と貢献をされてきました。先生は、今年定年を迎えられますので、「これからはごゆっくり」と申し上げたいところですが、まだまだ、次へのエネルギーを充分もっておられます。本日はご定年という人生の一応の「節目」に当たりご挨拶をさせていただきましたが、この4月からは、応用人間科学研究科の特別任用教授として、大学院での教育・指導を中心に引き続きお力を貸していただくことになっております。

今後は、われわれ教員の“先輩”という立場で、学部教学に大所高所から色々とお力添えいただければと思っております。私たちといたしましては、高垣先生の取り組んでこられた諸課題を、それぞれの立場から受け止め、今後の研究の推進と、学部・大学院教育に邁進したいと決意を新たにしているところです。

話を締めくくるにあたり、本学部ならびに立命館大学おける、これまでの先生のご活躍・ご貢献に敬意を表しますとともに、深く感謝申し上げます。先生、これからもお元気でご活躍ください。本当にありがとうございました。

2009年1月16日